

2025 年度 後学期 教養教育		日英区分 :日本語	
Webアプリケーション開発入門			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
LB2344	LB-1-AS0048-J	【教養教育】学びのリテラシー（２）	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
小川 康一 [Ogawa, Koichi]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次		■ ■ 単位数
			2

■ ■ 授業の目的

本授業では、社会において広く利用されている情報システムやサービスについてのなり立ちや動作原理を学び、これらの背景にある技術要素についての理解を深めるとともに、自ら基本的なWebアプリケーションを組み、実際の動作を確認出来るようになることを目的とする。コンピュータシステム、ネットワークシステム、クラウド基盤の構築・運用の実務経験のある教員がそれらの経験をふまえた授業を展開する。

■ ■ 授業の到達目標

Webサービスの仕組みを理解し、説明ができる。
PHPとMySQLを用いて基本的なWebアプリケーションを構築できる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 ○
D：社会的倫理観・国際性 -

■ ■ 授業概要

情報システムやWebサービスについての知識を得るとともに、これらの背景にある技術要素について理解し、自ら基本的なWebアプリケーションを開発する。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

授業の前半は、講義により情報システムおよびWebサービスについて学び、都度各自のPCにより演習を行う。
授業の後半は、何名かで構成するグループに分かれ、普段感じている課題や不便さについて話し合い、これを解決する独自の新しいシステムやサービスについて、調査、議論、検討を行う。
独自に検討したシステムについて、できるだけ実際に実装を行い、その機能や効果を検証する。
最終成果は、講義内でグループごとに発表を行う。

■ ■ 授業スケジュール

第1回 ガイダンス・イントロダクション
第2回 環境設定・ソフトウェアインストール
第3,4,5,6回 PHPによるプログラミング
第7,8回 データベースについて、MySQL（MariaDB）のインストール、PHPからのデータベースの利用
第9,10,11,12,13, 14回 PHPアプリケーションの実装、グループワーク
第15回 グループ発表

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

課題を出しますので、自ら積極的にアプリケーションを作成し、できたものがどのような動きをするか確認すること。
後半は、Webサービスの調査、開発についてグループで協力して取り組むこと。
なお、授業時間内だけでは、全ての知識を網羅することは困難であるため、動画コンテンツや補助教材を利用し、プログラミングを行ったことがない学生に対する配慮を行う予定である。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び 関連するディプロマポリシー

小テスト （20点） A, B
グループ評価（20点） A, B, C
最終課題 （40点） A, B, C
教員評価 （20点） A, B, C

■ ■ 受講条件（履修資格）

授業にノートパソコンを持参してください。
OSはWindowsもしくはMac OSを推奨しますが、Linuxでも問題ありません。

■ ■ メッセージ

自分で実際にやってみないと分かりません。手を動かしてどのような動作をするか確認してください。
可能であれば習得した方法を使って自分でプログラムを作ってみましょう。

■ ■ キーワード

Webアプリケーション、プログラミング、PHP、データベース、実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

情報、Linuxリテラシー入門

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

教科書

参考書

参考書1	ISBN	4295201103			
	書名	初心者からちゃんとしたプロになるPHP基礎入門			
	著者名	柏岡秀男 著, 柏岡, 秀男,	出版社	エムディエヌコーポレーション	出版年 2021
	備考				

教科書・参考書に関する補足情報

参考書の購入は必須ではありませんが、記載内容に沿って講義します。
中央図書館にありますので必要に応じて参照してください。

コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=3112>

授業言語

参考書・資料：「日本語」
講義・討論：「日本語」

2025 年度 後学期 教養教育			日英区分 :日本語
ひとを理解すること			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
LB2431	LB-1-AS0066-J	【教養教育】学びのリテラシー（２）	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
上星 浩子 [Jouboshi, Hiroko]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次		■ ■ 単位数
			2

■ ■ 授業の目的

本講義では、「ひとを理解することはできるのか」「相手の立場になって考えることはできるのか」という問いに対し、ひとを理解することの意味、ひとの持つ多様性、ひとに影響を与える要因等について考え、ひとの理解、人間関係の基盤を学ぶ。また「聞き書き」という手法を通し、対象の気持ちに気づき、感じ取る能力を獲得する。
本講義の目的は、ひと（対象）を理解するために必要な知識やスキルを獲得するために文献や資料、グループディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションを通して人間関係の基盤を理解することである。

■ ■ 授業の到達目標

1. 自分自身について客観的に理解し、その内容を記述できる。
2. ひとを理解する意味について考えることができる。
3. ひとの持つ多様性について説明できる。
4. ひとに影響を与えている因子について考えることができる説明できる。
5. 「聞き書き」を通して対象の気持ちに気づき、感じ取ることができる。
6. ディスカッションを通してメンバーのもつ様々な見方、考え方に出会い、ひとの持つ多様性について体験できる。
7. グループメンバーと協力し、他者に伝わるプレゼンテーションができる。
8. グループディスカッション、プレゼンテーション、聞き書きを通してひとを理解することの必要性を説明できる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解○
B：論理的・創造的思考力○
C：コミュニケーション能力○
D：社会的倫理観・国際性○

■ ■ 授業概要

看護の対象は人間であり、「病気を理解する」だけでなく、「病気を持つひとを理解する」、「相手（患者）の立場に立って考える」ことが重要であるといわれる。しかし、病気を持つひとの理解、自分でない相手の立場になることはなかなか難しいことである。ひとを理解するとはどのようなことか。ひとを理解することの意味、ひとの持つ多様性、ひとに影響を与える要因等について考え、ディスカッションを通してひとを理解しようとする思いや、ひとのもつ様々な見方、考え方に出会い、人間関係の基盤を学ぶ。さらに「聞く（聴く）」「語る」ことの意味や「聞き書き」という手法を通し、対象の気持ちに気づき、感じ取る能力を獲得することを目指す。

看護師の実務経験のある教員が、その実務を活かして、ひとを理解することの意味や方法について授業を行う。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義、グループワーク、ディバート、フィールドワーク、プレゼンテーション、課題レポート

■ ■ 授業スケジュール

No.	内容
第1回	イントロダクション ひとを理解することはできるのか？（講義） 「このひと、どんな人？」：自己理解と他者理解
第2回	グループディスカッション①（講義・演習） ひとを「知る」「理解する」ことの意味
第3回	グループディスカッション②（講義・演習） 「ひとの多様性」とは？
第4回	グループディスカッション③（講義・演習） 「ひとに影響を与えている因子」は何か？
第5回	グループディスカッション④（講義・演習） 「相手の立場に立つ」とはどのようなことか？「相手の立場に立つ」ことはできるのか？ ディバートの方法
第6回	ディバート①（演習）
第7回	ディバート②（演習）
第8回	グループディスカッション⑤（講義・演習） ひとを理解するための方法
第9回	聞くこと、語ること、書くことの意味①（講義） 「聞き書き」について
第10回	聞くこと、語ること、書くことの意味②（演習） 「聞き書き」について
第11回	「聞き書き」ワーク①（演習）
第12回	「聞き書き」ワーク②（演習）
第13回	「聞き書き」ワーク③（演習）
第14回	「聞き書き」ワーク④（演習）
第15回	プレゼンテーション：「聞き書き」を行ってみて・まとめ
第16回	最終試験：レポート課題の提出

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。
講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技

毎回の課題、ディスカッションに対し、様々な文献や資料、書籍を読むこと、プレゼンテーションの準備、聞き書き、レポートを行うための時間が必要となる。

成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

毎回の課題（20%）：A・B
グループディスカッション・プレゼンテーション（20%）：A・B・C・D
「聞き書き」産物（30%）：A・B・C・D
レポート（30%）：A・B・D

成績評価は、S（90-100点）、A（80-89点）、B（70-79点）、C（60-69点）、D（59点以下）とし、S、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。ただし問題の難易度によって点数を調整する場合がある。

受講条件（履修資格）

常にリサーチエスションを持ち、考え、調べ、グループディスカッションに積極的に参加することが条件となる。

メッセージ

自分でない他人、ひとを理解すること、対象の立場になって考えることはとても難しいことです。ひとの多様性について考え、そのひとを理解するにはどうしたらよいのか、皆さんで考えていきたいと思っています。
また、グループワーク、ディスカッション等でパソコン等を使用するため、ご準備ください。

キーワード

ひとの理解、多様性、聞き書き、実務経験、アクティブラーニング

この授業の基礎となる科目

学びのリテラシー 1

次に履修が望まれる科目

各学部の特設科目

関連授業科目

特になし

教科書

参考書

参考書1	ISBN	978-4901483537					
	書名	「聞き書き」をはじめよう					
	著者名	小田豊二著	出版社	木星舎	出版年	2012	
	備考						

参考書2	ISBN	978-4901483759					
	書名	ワークブック「聞き書き」をはじめよう					
	著者名	小田豊二著：原田悦子イラスト	出版社	木星舎	出版年	2014	
	備考						

教科書・参考書に関する補足情報

指定図書はないが、適宜、参考資料や図書を紹介する。

コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=2240>

授業言語

使用言語：「英語でもできる」
配布資料：「英語でもできる」

2025 年度 後学期 教養教育		日英区分 :日本語	
知っておきたい肺とアレルギーの話			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
LB2209	LB-1-HS0011-J	【教養教育】健康科学科目群	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
久田 剛志 [Hisada Takeshi]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次		■ ■ 単位数
			2

■ ■ 授業の目的

肺は、酸素を取り込み二酸化炭素を吐き出す臓器である。常に外界（周りの空気）と触れ合っているため、多くの病気がおこりえる。アレルギーを含めた呼吸器の疾患について、医療関係者のみならず、皆が知っておきたい肺とアレルギーの基本的知識についてやさしく解説する。呼吸器を中心として、病気の成り立ちや予防法、治療法の基礎を理解し、今後の生活、職業、研究などに役に立つ基本的な知識を身に着けることができるようになる。以上のことを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

教養教育の科目であり、専門知識がなくても理解できるレベルである。
以下を到達目標とする。
基本的な呼吸の仕組み、肺の働きについて説明できる。
代表的な呼吸器疾患の成り立ちを説明できる。
呼吸器疾患やアレルギー疾患の予防法や治療法の基本について説明できる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ◎
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 △
D：社会的倫理観・国際性 △

この科目を受講することによって、人体の巧妙な仕組みと各種疾患が発症するメカニズムを理解することはいろいろな学部専門教育にも通じるところがある。また、自己の健康管理にも役立つものである。

■ ■ 授業概要

呼吸機能について、また喫煙の健康への影響、呼吸器疾患とアレルギー（肺癌、結核、肺炎、睡眠時無呼吸症候群、喘息、花粉症など）をやさしく、予防法なども含めて解説する。
呼吸器学会専門医、アレルギー学会専門医、感染症専門医である教員が、その実務経験を活かして授業を行う。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義形式が主体である。

■ ■ 授業スケジュール

全担当：久田剛志【実務家教員】

- 第1回 肺の働き、呼吸の役割
第2回 タバコの影響・・・軽いタバコならいいのでしょうか？ 新型タバコは？
第3回 タバコ病である肺気腫（COPD）を知り、あとで後悔しないようにしよう
第4回 肺がんを知り、予防に心がけよう
第5回 睡眠中に息がとまってないですか？ 睡眠時無呼吸症候群
第6回 結核、なぜマスコミで騒がれたのでしょうか？
第7回 まとめ①
第8回 肺炎・インフルエンザ 超高齢社会において
第9回 アレルギーは、どうしておこるのでしょうか？
第10回 喘息はなぜおこるのでしょうか？ 予防と治療は？
第11回 花粉症を何とかするには？
第12回 鳥の飼い主などを襲う息苦しい病気 - 過敏性肺炎
第13回 環境や職業によっておこる肺の病気？
第14回 食事による病気の予防！ 呼吸器疾患やアレルギーにも・・・
第15回 まとめ②
第16回 試験
※ 予定が変更になる場合には、随時連絡します。

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

毎回資料またはプリントを用意する。Moodleにより予習また復習し、知識を確実なものにして欲しい。
毎回のリアクションペーパーについて記載し提出する。
試験は記述式問題が中心であり、プリント、資料内容を理解していれば解答できる。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法） 及び 関連するディプロマポリシー

各回で課せられたリアクションペーパーの記述内容および講義内容に関して課される最終筆記試験の結果などを総合的に評価する。
基本的理解 A・B・C
レポートの適切な記載 A・B
履修の手引きに記載されたルーブリックに基づいて行われる。

最終レポート（70％）、各授業における課題（30％）（A,B,C,D）で評価する。

S評価、90点以上かつ受講者のなかで特に優れていると判断される者、A評価、80点以上でS評価以外の者、B評価、70-79点の者、C評価、60-69点の者、D評価、60点に満たない者。ただし試験問題の難易度によって評価を調整する場合もある。

■ ■ 受講条件（履修資格）

全学部生

■ ■ メッセージ

肺の病気は、年齢を問わず発症し、様々なものがある。病気の本質とその予防法を理解し、健康な生活を送れるように今から努めよう。新しい健康に関する話題も随時取り入れてやさしく解説していく。

■ キーワード

肺、呼吸器、喫煙、肺がん、結核、アレルギー、喘息、睡眠時無呼吸症候群、 ω 3脂肪酸、アクティブラーニング、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

■ 次に履修が望まれる科目

■ 関連授業科目

■ 教科書

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

Moodleから講義で使用する資料、プリント等を見ることができる。必要に応じてプリントを配布する。

■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=2552>

■ 授業言語

使用言語：「英語でもできる」

配布資料：「英語でもできる」

2025 年度 前学期 教養教育			日英区分 :日本語
生命保険の仕組みと利活用を考える			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
LB1279	LB-1-IS0041-J	【教養教育】総合科目群	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
杉山 学 [Sugiyama Manabu], 天野 智英 [Amano, Tomohide]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次		■ ■ 単位数
			2

■ ■ 授業の目的

社会保障制度の仕組みや自助努力で将来に備えることの重要性を理解し、リスクを回避・抑制する手段の一つである生命保険の仕組み・役割等について学ぶことを通じて、これからの持続可能な社会を営む一員として役に立つ知識・考え方の習得を目指す。

■ ■ 授業の到達目標

社会保障制度の概要やその主な保障内容を理解し、説明することが出来る。
現代生活に潜むリスク、生命保険の意義・役割、基本的な仕組みを理解し、説明することが出来る。
大学生として、公的保障と私的保障のあるべき姿について、自分なりの考察を加えて整理し、説明することが出来る。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

A：諸科学についての基礎的知識と理解 ◎
B：論理的・創造的思考力 ◎
C：コミュニケーション能力 ○
D：社会的倫理観・国際性 ○

■ ■ 授業概要

この授業では、まず私たちを取り巻く経済環境について概観する。
その理解の上に立ち、少子高齢化社会の一層の進展により、表面化している社会保障制度の諸課題を背景に、公的保障と私的保障の多様なあり方や、私的保障（生命保険）の意義、自助努力の必要性や有用性について理解し、考察を深めていく。
また、グループ単位で課題分析・解決策等を議論し、提言としてまとめあげるグループディスカッションも予定している。
全ての講義において、大手生命保険会社の役員・管理職等を歴任し、生命保険事業全般に深く精通した幅広い知識・経験・実績を有する講師陣が担当する。
経験談や最新の情報提供も随所に織り込み、理論と実践の両面から理解を深めていく。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義と演習（グループディスカッション）。
演習（グループディスカッション）は2回程度、少人数に分かれて与えられたテーマに対する解決策の議論等を行う。

■ ■ 授業スケジュール

1：オリエンテーション・総論
2：生活設計とリスク管理
3：生活設計と社会保障
4：公的保障と生保(死亡・医療)
5：公的保障と生保(老後・年金)
6：隣接業界・生保の組織・業務
7：グループディスカッション①
8：生保商品の変遷・動向
9：生保の資産運用
10：生活設計と資産運用
11：生命保険と税金
12：トラブル・災害対応とSDG'sへの取り組み
13：グループディスカッション②
14：グループディスカッション② 発表
15：総括（小テスト）
※受講生の理解度や履修人数によっては、内容・順番を見直す場合があります。

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。
講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技

授業で使用了た資料に基づいて一時間程度の復習を行うことが、内容理解において必要です。復習として小レポートの課題を行い提出する。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

<対面授業の場合>
授業への参加度+（受講回によって実施）小レポート等の内容」70点（A,B,C,D）
「最終試験得点」30点（A,B,D）で評価します。
最終試験は学期末に実施します。下記の観点から評価を行います。
・社会保障制度の概要の理解
・生命保険の意義・役割・仕組み等の理解
小レポート（A,B,D）、グループディスカッション（B,C）では、課題に対して自分なりにどのように考察し、それを説明できているかを評価します。
<オンライン授業となった場合>
毎回の課題提出を基本に、受講状況を見ながら、総合的に評価することとします。
最終試験は実施しませんが、商品提案ディスカッション、及び、最終提出レポートでは、課題に対して自分なりにどのように考察し、それを説明できているかを評価します。

■ ■ 受講条件（履修資格）

■ ■ メッセージ

少子高齢化の進展を踏まえた社会保障制度の改革状況について、メディア等を通じて情報収集し、課題認識の向上を図ると、より講義が楽しく理解できるようになると考えます。
その上で、生活設計・生命保険について学ぶことは、それぞれの人生について考える大変有益な機会にもなると考えます。

■ ■ キーワード

公的保障と私的保障，公助と自助，生活設計，リスク管理，実務経験のある教員

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

毎回の講義時に資料を配布する。

■ ■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=2588>

■ ■ 授業言語

教科書・資料：日本語のみ
講義・討論：日本語のみ

2025 年度 前学期 共同教育学部			日英区分 :日本語
教職論			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
EB3004	EB-1-FU0102-J	【共同教育学部】教育基礎科目	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
安藤 哲也 [Tetsuya Andoh]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次		■ ■ 単位数
	1年次 ～ 4年次		1

■ ■ 授業の目的

教職入門期に、教師として必要とされる資質・能力等について理解するとともに、目指す教師像を自分なりに具体化していくことをねらいとする。

■ ■ 授業の到達目標

- ・教師に必要な資質・能力について理解するとともに、その教育態度について実感することができる。
- ・教師としての成長と振り返り(リフレクション)の関係について、体験的に理解することができる。
- ・自身の理想とする教師像を具体化することができる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

E：学校教育・教職の基礎理論と知識 ◎
F：子どもの成長・発達と教育方法 ○
G：教科・教育課程に関する知識と技能 －
H：学校教育に関する様々な課題 ○
I：他者との協働 ○

■ ■ 授業概要

本講義は、教師の日常的職務活動の具体的な場面を想定し、学級担任としての具体的な教育行為について考察・体験することを通して、教育実践者としての教師のリアリティに接近する。幼・小・中・特
支学校で学級担任として勤務した経験を適宜紹介しつつ、学校種(子どもの発達)を超えた教師としての有り様と学校種(子どもの発達)に応じた教師の有り様についても考察していく。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義と演習。講義では、各回に提供された話題について4～6名程度のグループで話し合い、自分なりの考えをもつ機会を設ける。また、本授業のまとめとして位置付ける演習では、学級開きの場面を
想定し、学級担任として子どもたちに語りかける活動を行う。

■ ■ 授業スケジュール

第1回：教師として学ぶべきことを展望する
第2回：教師に求められる資質・能力について理解する
第3回：教師の仕事について考える（カリキュラム経営・学級経営）
第4回：教師の仕事について考える（子ども理解・授業づくり）
第5回：学校・学級づくりをチームで支える視点をもつ
第6回：教師としての成長について考える
第7回：教師として語る（体験活動）
第8回：理想とする教師像について考える
レポート提出

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

事後学習として、各回的小レポートとそれに付した教員のコメントをもとに授業内容を振り返り、考察を深める。また、授業内で紹介した図書や資料を読み、さらに学びを広げたり深めたりする。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び 関連するディプロマポリシー

成績評価の方法：

- ・授業への積極的な参加態度(20%) I
- ・毎回実施の振り返り小レポート(70%) E,F,H
- ・課題レポート(10%) E,F,H

成績評価の基準：

- ・教師に求められる資質・能力と教師としての成長を促す省察の重要性について理解している。
- ・自身の理想とする教師像を具体化している。

■ ■ 受講条件（履修資格）

■ ■ メッセージ

本授業では、資料の配付や課題の提出は、全て共同教育学部LMSを使用します。受講する際は、必ずLMSへの参加者登録を行ってください。

■ ■ キーワード

教師の資質・能力 省察 同僚性・協働性 アクティブラーニング 実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

参考書

教科書・参考書に関する補足情報

LMSから毎回の講義で使用する講義資料、ワークシート等をダウンロードできる。

コース管理システム (Moodle) へのリンク

授業言語

日本語

2025 年度 前学期 共同教育学部			日英区分 :日本語
教育とICT活用			
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野	
EB2057	EB-1-AB0403-J	【共同教育学部】教育基礎科目	
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）			
鈴木 豪 [Goh Suzuki], 紺谷 正樹 [Konya, Masaki]			
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次		■ ■ 単位数
	1年次 ～ 4年次		1

■ ■ 授業の目的

現代の学教教育において、情報通信技術の活用は不可欠なものになりつつある。本講義では、教育現場における情報通信技術（ICT）の意義やあり方、活用方法等について、基礎的な理解をすることを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

- ・学校教育における情報通信機器の活用と意義について説明できる
- ・情報機器通信機器を活用する際の注意点（情報モラルなど）について説明できる
- ・学校におけるICT環境整備ならびに外部人材との連携のあり方について説明できる
- ・タブレット端末を活用した学習指導をはじめとする教育の情報化について説明できる

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- E ○ 学校教育や教職についての基礎理論・知識を修得し、教師としての使命感を持って子どもに接することができる。
- F ○ 子ども理解や学習集団形成のための必要な知識を修得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個に応じた指導ができる。
- G ○ 教科及び教育課程に関する知識・技能を持ち、子どもの実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。
- H ○ 現代社会における教育に関する様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し、探求心を持ってその解決に取り組むことができる。
- I – 他者を尊重し、多様なステークホルダーと協働して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。

■ ■ 授業概要

本講義では、ICT機器の教育活用における意義や活用方法について説明する。
なお、実務経験を有する教員については、下記の通りである。
主として、中学校数学科における情報通信機器を活用した学習場面の整理と教育効果の検証の経験を生かして、タブレット端末を活用した指導技術の理解とその指導法に関する授業等を実施する。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

基本的には教員からの講義形式で進める。ただし、学生同士のグループワークや意見交換等も必要に応じて随時行う。

■ ■ 授業スケジュール

- 第1回：現代の学校教育における情報通信技術活用の意義と在り方（鈴木）
第2回：特別の支援を必要とする児童生徒への対応と情報通信機器の活用（鈴木）
第3回：教科教育（教科横断的な教育を含む）と情報活用能力・情報モラルの指導（鈴木）
第4回：情報通信機器の操作の指導法（鈴木）
第5回：ICT環境整備ならび校務システムの構築と外部人材等の連携（紺谷）（実務経験のある教員による授業）
第6回：タブレット端末を活用した指導技術の理解とその指導法（紺谷）（実務経験のある教員による授業）
第7回：スタディログを活用した教育評価ならびに教育情報セキュリティ（紺谷）（実務経験のある教員による授業）
第8回：オンライン教育システムの意義ならびにその活用方法（紺谷）（実務経験のある教員による授業）

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。
講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技

毎回、LMS上に小課題を掲示するので、取り組むこと。
また、配付資料以外の参考資料もLMSに掲示したり、リンクを作成するので、確認すること。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

毎時間の小課題並びに2回のレポート課題提出をもって総合的に評価する。

毎回の講義に付随する小課題の提出状況(20%)(EFGH)
レポート課題（鈴木出題）（40%）(EFGH)
レポート課題（紺谷出題）（40%）(EFGH)

レポート課題は、主に、
・授業内容を踏まえたものになっているか
・内容が論理的でわかりやすいか
の観点から評価される。

■ ■ 受講条件（履修資格）

共同教育学部生（2022年以降の入学者）

■ ■ メッセージ

■ ■ キーワード

情報通信技術（ICT）、教育法法学、タブレット端末、GIGAスクール、実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

教科書

参考書

教科書・参考書に関する補足情報

コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=1702>

授業言語

使用言語：「日本語のみ」

配布資料：「日本語のみ」

2025 年度 前学期 共同教育学部		日英区分 :日本語
初等国語科指導法		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
EB2112	EB-2-BB0101-J	【共同教育学部】小学校教科・指導法
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
濱田 秀行 [Hamada Hideyuki], 永由 徳夫 [Nagayoshi Norio], 河内 昭浩 [Akihiro Kawauchi]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	3年次 ～ 4年次	2

■ ■ 授業の目的

小学校国語科の授業を実践する資質・能力を高めるために、学習指導要領に基づく小学校国語科の学習指導の目標・内容・方法について理解を深める。小学校国語科の授業において「主体的・対話的で深い学び」を実現することができるようになることを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

学習指導要領に示される目標・内容・方法を踏まえた小学校国語科の授業実践を構想することができる。
小学校国語科の学習指導案を作成し、実習校で授業を行うことができる。
「指導と評価の一体化」について説明ができる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

E：学校教育・教職の基礎理論と知識　－
F：子どもの成長・発達と教育方法　◎
G：教科・教育課程に関する知識と技能　◎
H：学校教育に関する様々な課題　○
I：他者との協働　◎

■ ■ 授業概要

小学校国語科の授業を構想する上で踏まえるべき「学習指導要領解説国語編」の内容について知識を得る。
他者と協働しながら小学校国語科の学習指導の計画を作成する。
学校での実務経験のある教員が、その実務経験を生かして国語科の指導方法についての授業を行う。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義と演習。グループでの対話・討論を行う。

■ ■ 授業スケジュール

- 1 小学校における「ことば」の学び（講義：濱田）
- 2 国語科学習指導の枠組み（言語活動）（講義：濱田）
- 3 「読むこと」の指導①（演習：濱田）
- 4 「読むこと」の指導②（演習：濱田）
- 5 「主体的・対話的で深い学び」の実現（ICTの活用について）（講義：濱田）
- 6 実践者から学ぶ①（外部指導講師）
- 7 実践者から学ぶ②（外部指導講師）
- 8 書写①（演習：永由）
- 9 書写②（演習：永由）
- 10 国語科学習指導の目標（講義：河内）
- 11 国語科学習指導の内容と構造（講義：河内）
- 12 国語科における「知識及び技能」（講義：河内）
- 13 「書くこと」の指導①（演習：河内）
- 14 「書くこと」の指導②（演習：河内）
- 15 総括討論（演習：河内）

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。
講義・演習　授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技

授業時間外学習課題が課される（授業時間90分に対して180分の予復習が必要である）。LMSの情報を確認し次回の授業内容の予習を行うとともに、指示ある場合、復習に相当する課題を指定された期日までに提出すること。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

授業における課題への取り組み（20点）　G, I
課題・授業の振り返り（30点）F, G
レポート（50点）G, H

※評価は担当教員ごとに算出し、担当回数の割合に基づき100点満点になるよう合算します。上記の配点比率は基本的な枠組みであり、授業の実態（課題の数等）によって変わることがあります。

■ ■ 受講条件（履修資格）

■ ■ メッセージ

本授業での学びの一つ一つが、これからの教育実習や教員生活につながっています。全力で授業に取り組んでください。

■ ■ キーワード

アクティブ・ラーニング　小学校　国語科　指導法　「主体的・対話的で深い学び」　実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

教科書

教科書1	ISBN	4491034621				
	書名	小学校学習指導要領解説国語編				
	著者名	文部科学省	出版社	東洋館出版社	出版年	2018
	備考					

参考書

教科書・参考書に関する補足情報

コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=3064>

授業言語

使用言語：「日本語のみ」
配布資料：「日本語のみ」

2025 年度 通年 共同教育学部		日英区分 :日本語
教職実践演習		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
EB2683	EB-4-GB0101-J	【共同教育学部】教育実践科目群
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
濱田 秀行 [Hamada Hideyuki], 小林 正行 [Kobayashi Masayuki]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	4年次 ～ 4年次	2

■ ■ 授業の目的

教職を中心とする職場において求められる思考力・判断力・表現力等を育成する。特に、様々なコミュニケーションの在り方について考えることを通して、論理的で他者からの共感を得られるようなコミュニケーションを実践できるようになることを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

教職を中心とする職場において求められる一般常識を踏まえた社会人としての振る舞いができる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

E：学校教育・教職の基礎理論と知識 ○
F：子どもの成長・発達と教育方法 ○
G：教科・教育課程に関する知識と技能 –
H：学校教育に関する様々な課題 ◎
I：他者との協働 ◎

■ ■ 授業概要

担当教員による講義と、学生による演習。実務経験のある教員が、その実務経験を活かして教職関連の授業を行う。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義、演習

■ ■ 授業スケジュール

No.	内容
第1回	最新の教育事情①
第2回	最新の教育事情②
第3回	教員としての資質・能力の基礎 ※実務家担当
第4回	特別な支援を要する児童生徒の指導 ※実務家担当
第5回	言語活用能力①（小林正行）
第6回	言語活用能力②（小林正行）
第7回	言語活用能力③（小林正行）
第8回	教員としての資質・能力の確認 ※実務家担当
第9回	不登校児童生徒の支援について考える①（濱田秀行）※実務家担当
第10回	不登校児童生徒の支援について考える②（濱田秀行）※実務家担当
第11回	プレゼンテーション力①（濱田秀行）※実務家担当
第12回	学校経営と特別活動① ※実務家担当
第13回	学校経営と特別活動② ※実務家担当
第14回	教師のライフコースとキャリアパス ※実務家担当
第15回	プレゼンテーション力②（濱田秀行）※実務家担当

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

教職を中心として、様々な職場において働くとは具体的にどのようなことが求められるのか、アンテナを高くて様々な情報を得てください。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法） 及び 関連するディプロマポリシー

授業中の課題への取り組み（40点）E, H, I
授業の振り返りと授業後の課題（30点）E, H, I
レポート（30点）E,F,H

■ ■ 受講条件（履修資格）

国語専攻学部4年生

■ ■ メッセージ

■ ■ キーワード

アクティブラーニング, 教職, 実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=1554>

■ ■ 授業言語

使用言語：「日本語のみ」

配布資料：「日本語のみ」